

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年 1月 16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470202510		
法人名	有限会社 美泉		
事業所名	グループホーム よってきんさい古江		
所在地	733-0872 広島市西区古江東町1-26 (電話) 082-507-6525		
自己評価作成日	平成28年12月1日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=3470202510-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成29年1月11日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

民家改造型のグループホームです。階段や段差がありますが、改修と見守りで対応しています。季節に応じた行事やお誕生日会を企画し、ご家族とともに楽しんで頂いています。利用者様と一緒に作業し、共に生活しながら思いをくみ取り、安心して暮らしていただけるように努めています。特に力を入れている点は、看取りです。本人と家族の意向を確認し、主治医や看護師と連携を取り行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成12年12月開設のグループホームである。周囲は鉄道の駅も近く、スーパーやコンビニエンスストアも近くにあるなど、便利な環境である。事業所は大きな日本家屋を改装し、グループホームとして運営しており、和風の玄関、大きな松の木など、閑静な住宅街である周囲の景観ともマッチし、落ち着いたたたずまいになっている。建物内には段差が多いが、利用者は段差を意識して移動することで、転倒することは少ない。
事業所では看取りケアに力を入れており、本人や家族の意向を重視しながら、最後まで落ち着いた環境で過ごせるような支援が行われている。また、事業所では温かい手料理を利用者とともに作ったり、誕生日会を皆で行うなど、家庭的な雰囲気が特徴的である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	美泉開設当初よりの運営理念があり、掲示し毎朝唱和している。その理念を基に、事業所で目標を立て取り組んでいる。	家庭的なサービスを行うことを事業所の運営理念とし、利用者の意向を可能な限り尊重するなど、利用者の尊厳を守ることに心掛けている。また、事業所で毎年、目標を掲げて日々の活動を行っており、昨年からの目標である整理整頓を心掛け、職員全員で日々実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、町内の清掃に参加している。回覧板を利用者と一緒に届けたり近所のお店に買い物に行ったり、散歩でお話をしたりしている。	町内会に加入し、近隣住民との挨拶や声掛けも積極的に行っている。祭りなど、地域行事があるときは、事業所にも神輿に立ち寄ってもらい、利用者と一緒に写真を撮るなど、事業所自体が地域の一員として、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を開き、お伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一回の運営推進会議で町内会長、民生委員、地域包括支援センターより出席して頂き、事業所の活動や利用者の状況等を報告している。会議での意見はミーティングや管理者会議で取り上げ日々のケアに活かせるよう取り組んでいる。	老人会、民生委員、地域包括支援センターなど、関係者に参加してもらい、事業所内の報告や意見交換を行っている。毎月第2月曜日に定例化することで、参加者も予定が立てやすくなるよう配慮している。会議で出された意見は、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	生活保護受給者の受診等について連絡し、状況を伝えている。2ユニットに向けて、市との話し合いを進めている。	利用者の受診状況など、区的生活課の職員へ報告を行うなどしているほか、地域包括支援センター職員に運営推進会議へ毎回参加してもらうことで、市からの情報提供を積極的に入手するようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束排除宣言を掲げ、日々、取り組んでいる。社内研修で身体拘束について学び、日頃より職員同士で声を掛け合い、気をつけている。	身体拘束防止のため、法人全体での研修などを通じ、職員の意識の向上に努めている。また、帰宅願望が強い利用者に対しても、声掛けをしながら落ち着いてもらうなど、職員同士で助け合いながら取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	社内研修で全職員が学んでいる。事業所内でも、職員同士で気をつけ、注意しあっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修で学ぶ機会を持っている。必要性がある方には、施設代表者に相談し、支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書、契約書に沿って説明している。疑問点の質問を受け、それについて納得頂けるまで説明する等の対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時にお伺いしている。意見、要望がある場合、会議やミーティングで議題として検討している。	面会時に、管理者が家族からの意見を聞いているほか、クリームを塗ってほしい等、家族からの詳細な要望に対しても丁寧に応じている。必要に応じ会議やミーティングで議題にあげ、意見が運営に反映できるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	事業所のミーティングや申し送り時、意見を聞いている。月二回の管理者会議に意見を出し合い、検討し、運営に反映させている。	事業所内でミーティングを行い、必要に応じて、法人全体での管理者会議の場で提案している。人員に関する相談や、必要物品の購入、イベントの企画など、職員からの幅広い提案が話し合われ、可能な限り反映がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	日々の勤務状況を、申し送りや報告を受け、各事業所を訪問することにより把握に努めている。職員はいつでも施設代表者に連絡を取ることができ、必要時に相談をしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内研修を定期的に行い、社外研修の希望時には勤務の調整を行っている。日々のケアも向上できるよう、お互い気づきを伝え合う等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修や地域事業所の交流会には、積極的に参加するようにしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用前の面接を行い、本人、家族から要望や困っていることを伺い、それを解決できる方法などお伝えし、他の選択もあることを併せて説明している。色々な話をしながら、よい関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	利用前面接や電話相談時に、困り事などお聞きしている。納得いただき、利用の手続きを開始している。途中も家族からの話、要望などお聴きし、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	利用の相談があった時、その時の困りごとなどお聴きし、当事業所や他のサービスについても説明している。その上で、一番あ合ったサービスを選択して頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者を主体と考え、日々対応している。共に家事作業や、食事・散歩を行い、教えて頂く事が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者についての相談を行い、一緒に考え、提案を頂くなどしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	利用前の馴染みの病院や、美容院など希望される場合は、職員がお連れしたり、家族の力を借りる等しながら、関係性を大切に継続している。	利用者が利用前から利用していた美容院を希望する場合や、希望の病院に通院する場合など、職員が対応したり、家族に協力を求めたりするなど、これまでの利用者の関係性を大切にしながら支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	性格や相性を考え、テーブルの席を決めたり、職員が間に入り交流がスムーズにできるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	死亡退居がほとんどで、お通夜やご葬儀を事業所で行う場合もあり、対応している。その後も、電話相談など受けることもある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用前面接を行い、本人や家族より意向を聞いている。利用後も、随時、思いや希望を伺い、アセスメントしている。困難な場合には、表情や声・態度などから把握に努めている。	利用前に本人や家族から意向を聞いているほか、アセスメントシートを活用して本人の状況を把握している。また、日々の生活の中で、落ち着きがなくなった利用者に対しても、散歩が好きな方には外に出て落ち着いてもらうようにするなど、本人本位の対応が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人・家族・ケアマネ・病院等の関係機関より、情報を収集し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	入居前の状態を面接時に伺い、入居後は共に生活しながら、その時々様子を記録し、職員同士共有しながら現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用前面接で、家族・本人・ケアマネジャーや病院・施設関係者より情報を得てアセスメントし、ケアワーカーや主治医の意見を聞きながら、プランを立てている。</p>	<p>利用者の個別のファイルに、日々の介護記録とともにアセスメントシートを入れており、職員は介護記録をつけながら介護計画等を確認している。また、医療情報や職員の記録をもとに介護計画の見直しを行い、現状に即した介護計画の作成が行われている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>個々の生活日誌に日々の様子や対応、気づきを記入している。それをプランの見直しや、毎月の家族へのお手紙に活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>入院時には、毎日～1日おき程度で面会に行き、物品の補充や洗濯物の持ち帰りを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>公園に散歩や、近所のスーパーへ買い物に同行している。町内会の祭りに参加し、楽しんで頂いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用前の係りつけ医を希望される時は、そのまま継続して頂いている。係りつけ医がない場合や、特に希望がない場合は、グループホームのドクターにお願いしている。入院が必要な場合は、ホームドクターに病院を紹介して頂いている。</p>	<p>事業所の協力医に、二週間に1回訪問診療をしてもらっているほか、必要に応じ往診もお願いしている。利用前のかかりつけ医を希望する利用者や、専門医への受診の際は職員が付き添っている。本人や家族が納得のいく適切な医療が受けられるように支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>体調の変化がある時、看護師や医師に連絡し、対応している。必要に応じて受診し、他の病院へ紹介入院する場合もある。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時には、サマリーと口頭で情報を伝えている。面会に、毎日～1日おきに行き、看護師から様子を伺い、早期に退院できるよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用時に事業所で看取りを行っている事を説明している。重度化した場合、本人・家族の希望を聞き、医師・看護師・スタッフと話し合い、方針を決め、連携を取りながら支援している。</p>	<p>利用時に事前説明を行っているほか、実際に重度化した場合は、医師を交えて家族に説明を行い、看取りの体制を整えている。管理者も看護師であり、医療機関からの訪問看護も受けるなど、チームで支援ができるような取り組みがなされている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>社内研修を行い、急変時に対応できるように訓練している。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>火災による避難訓練を年二回行っている。地震、水害に対しては事業所で避難方法を話し合い、検討している。運営推進会議で地域の方々の協力が得られるようお願いしている。</p>	<p>年2回、火災を想定した避難訓練を事業所内で行っている。近隣の神社が避難場所であり、運営推進会議でも災害時の対応について話し合いが行われている。</p>	<p>災害時の対応について、消防署の指導を受けマニュアル化するほか、地震や水害に対しても初動を含めた災害対応について事前に想定することで、利用者や家族がより安全に過ごすことができるようになることが期待される。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	トイレ誘導や失禁時には、他の人に聞こえないよう配慮し、声掛けを行っている。丁寧に尊厳ある言葉かけを心掛けている。	事業所への見学者には、あらかじめ利用者の了解を得てから、部屋を見学してもらっている。また、トイレ誘導の声掛けなども、周囲に聞こえないように本人にそつと言うなど配慮を行い、人格や尊厳を尊重した対応を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	自分で選択できる場面を作っている。毎日着る服を一緒に選んだり、おやつ時の飲物を選んでいただいている。お誕生日会では献立のリクエストをうかがっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	グループホームの一日の流れは決まっているが、その中で本人にあった起床時間、食事時間、休息などで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	外出時や行事の時には、お化粧品や外出用の服を着ていただくなど支援している。男性は毎日、髭剃りをさせていただいている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お誕生日会では、食べたいもののリクエストを頂いたり、季節の行事では行事食を楽しんでいただいている。食材の皮むきや調理、盛り付け、下膳、食器洗いを利用者の状態に合わせて、一緒に行っている。	日々の食事は事業所での手作りであり、野菜の皮むきや配膳など、利用者と一緒に準備を行っているほか、誕生会やリクエストでの食事企画を行い、うなぎ、お寿司、ケーキなど、利用者が好むものを食べる企画も行っているなど、食事が楽しんでできるような支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	個々の生活日誌に摂取量、水分量を記入し、状況の把握に努めている。病状によっては水分制限があるが、それ以外、一日1500ml摂取できるよう心掛けている。食事摂取量が少ない時は補食して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを行っている。一人でできない場合は介助をしている。嚥下の力が弱い方は食前食後に口腔ケアを行い、誤嚥性肺炎を起こさないよう気を付けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	誘導し、できるだけトイレで気持ち良く排泄できるよう支援している。夜間はベットサイドにポータブルトイレを置き、対応している。	排泄チェック表を活用し、水分量もチェックができるようにしている。また、排泄をなるべくトイレやポータブルトイレで出来るように誘導や声掛けを行い、排泄の自立に向けた支援がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。	散歩などの運動や、野菜を食べて頂く、早朝に冷水や牛乳を飲用するなど、便秘の予防や解消に努めている。医師の指示のもと、下剤を服用して頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴は、最低でも1週間に3回は入っていただくよう支援している。季節の菖蒲湯や柚子湯など楽しんで頂いている。	家庭的な浴槽であり、利用者は2日に1回は入浴できる。季節に応じ柚子などを入れ、季節感を感じてもらっているほか、なるべく利用者のペースに合わせて入浴ができるような支援がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	体調に合わせて、食後は30分から1時間程度臥床し、休息して頂いている。夜間は巡室を行い、室温や掛物の調整をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬は職員が管理し、薬局から届く説明書を読み理解している。服薬時間に合わせ白湯を準備し、確実に服薬して頂いている。薬の効果の観察を行い、記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	食事作りや散歩、洗濯物干しなど、自宅で主婦として馴染んだ作業と一緒に続けている。男性にも、職業経験など活かした活動の支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	体調と天候に合わせて、毎日、散歩に出かけている。近所だけでなく希望を聞きながら、月に1～2回ドライブに出かけている。お花見や寿を祝う会などの行事を行い、普段とは違う雰囲気を楽しんで頂いている。	利用者の状況を見ながら、毎日散歩に出かけているほか、不定期でドライブに連れて行ったり、花見など季節の外出も行っている。また、近所のコンビニエンスストアにお菓子を買に行くなど、ちょっとした外出にも対応し、日常的な外出の支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	預かり金としてノートを作成し、管理している。外出時には、そのお金で買い物をして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話利用時には子機を利用して頂き、ゆっくりとお話ができるよう対応している。又お手紙を投函するなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	カーテンや電気でリビングや居室の明るさを調整している。排泄後の臭いは換気をし、必要時には消臭剤を使用している。壁画や作品、お花で季節を感じて頂けるようにしている。	広いリビングは日当たりも良く明るい雰囲気である。換気も注意して行い、臭いがこもらないようにしているほか、消臭剤も使用している。また、絵画や利用者の作品も掲示し、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを2か所に設置し、独りでの時間が持てるように配慮している。リビングには、気の合った人同士と一緒に過ごせるよう、2から3人掛けのソファを設置している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	利用時に本人の家族と相談し、できるだけ自宅で使い慣れたタンスや鏡台や仏壇などを持ってきていただいている。家族写真などを飾り、穏やかな気持ちで過ごせるよう配慮している。	部屋は日本的な和室や洋間など、バラエティーに富み、自宅で使い慣れた家具を持ち込むことができる。家族の写真など、利用者が穏やかに生活してもらえるような居室づくりの配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの方を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや浴室など表示し、階段には手すりやすべり止めを設置している。トイレまでの歩行が困難な方には、ポータブルトイレをベットサイドに設置し、できるだけ気持ちよく排泄できるようにしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームよってきんさい古江

作成日 平成29年2月28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策、水害・地震に対する対策が出来ていない	災害時の安全な避難が出来る	災害時のマニュアルを作成する	1年
2	35	〃	〃	水害・地震時の非難訓練を行う	6ヶ月
3	4	運営推進会議のマナー化	運営推進会議の出席者の幅を広げる	ご家族や近隣のスーパーなど参加を呼びかける	1年
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。